

社乃柱

秩父神社社報
柱乃社(ははそのもり)

第 26 号

平成14年12月3日
(大 祭)



守ります町や
天を守ります
皇太子の宮の
つねに負ふ
さうぢや
さかんしめなむ

神宮の「日毎朝夕大御食祭」に想ふ

「是の神風の伊勢の國は常世の浪の重浪帰する國なり
傍國の可怜し國なり 是の國に居らむと欲ふ」

日の女神 天照らし坐す皇大神 大和の地を離れ給ひ

神幸の己が御杖と頼み給ひし皇女倭姫命に

かく神言を伝へ給ひて神鎮まり給ふ伊勢の内宮

伊照らす日の恵みを享けて 地に育つ数多の生命

その数多生命を日ごと食して 満ち足らふ我らが生命

生命の為に生命を食らふ その事の罪の赦しを求めむとして
日毎朝夕大御食の祭りは 伊勢の外宮に坐す豊受大神の御祭り

我ら家毎の神の祭りもまた我ら生かされて生きる生命の
その有難さを日ごと神前に祈る祭り

明治天皇御製

朝夕に物食ふごとに豊受の神の恵みを思へ世の人

本居宣長「玉鉢百首」

たなつ物百の木草も天照らす日の大神のめぐみ得てこそ



① 虹梁の絵様

広範囲に普及したが江戸末期には多くの工匠に雛形本が刊行され、立川流の絵様の特色も希薄になつた。

ここで、図面①と②の虹梁の絵様を見てみよう。図面①は以前修理工事の時、製作した拓本を写したもので正確な原寸図ではないが、この絵様を書いた岡田信一郎先生の運筆の妙

雕刻師は東京芝の中村功正で、中村は秩父祭の下郷笠鉾が大正六年、重層の屋形に復元するとき、多くの彫刻を見事に完成した名工である。虹梁のごとき、平面彫刻を絵様と称し、渦と若葉からなるものが一般的である。江戸本所、立川通りの名匠立川小兵衛が宝曆年間、倭絵様集を刊行し、この絵様が形もよく整つて

神門の彫刻

秩父市文化財保護審議委員会

解説 秩父神社(25)



② 虹梁の絵様

角柱と円柱は頭貫で繋結し、円柱は大きな冠木で繋結し、角柱の上には組物を配して桁をうけている。この前後の組物のあいだに入れる板が琵琶板である。神門では岡田のすぐれた筆技によつて桃山調の見事な唐草模様だが、この様な唐草模様を宝相華文と言つ。「インド」の蓮華や中央アジアの植物文から中國で発展し

技を再現する様注意した。絵様は渦と若葉の構成にとらわれず、美しい線で自由に文様を構成したこの絵様は斬新というより古様を感じる。

虹梁は上の荷重を支える梁であるが、この絵様は荷重に対しても充分強さを發揮した様に形成されている。秩父地方には三十四所の觀音堂や其他の社寺も多く、至る所で虹梁の絵様は見られるが皆、渦と若葉の構成で、江戸時代末期になると虹梁のめんより絵様を上げたものも見られ、其他、雲、流水、松樹等も散在しますが神門の如き虹梁の絵様は関東一円に見ることはできない。

③図は琵琶板の絵様彫刻である。琵琶板とは神門の場合、中央は円柱で前後は角柱である。

◆神門の飾金目



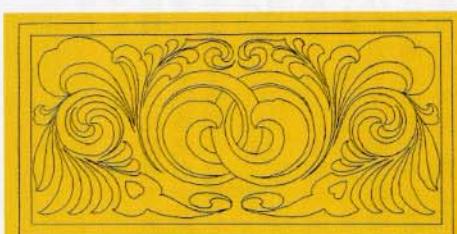
③ 琵琶板の絵様

秋父の皆さんには秩父祭屋台で、例年飾金具を見ているので、金具の概要是理解していると思うが、神門の金具は屋台と異なり洗練された文様で、他の地域では見られない貴重な金具である。吾が国最古の建築、法隆寺には忍冬唐草が見られるが、唐草と言う名称は平安時代に日本で作られた名称で、中国には、この様な名称はないといわれている。一般的には「ギリシャ」に発生した植物文様の忍冬唐草が原型であると言われ

A decorative panel from a koto (Japanese harp) showing intricate floral patterns in blue and black on a light background.



⑤ 破風板の飾金具文様



④ 冠木の飾金具文様

キで完成だが多くの曲線で文様を構成するので製作には高度の技術を要求される金具師は伊勢を始め官国幣社の多くの金具を調製した當時東京一と称された浅草の青木松太郎氏である。

秩父まほろば塾「マチづくり部会」結成をめざして

第一回秩父まほろばシンポジウム報告

はじめに

宮司菌田

「昨年八月十一日に第一回を開催した『秩父まほろばシンポジウム』では、『まほろばの鐵道』と銘打つて、まずは四つのテーマ、ナントラのマチづくり

②未来の武甲山、③企業おこし、④人づくりの四点についての提言を中心にして討議をし、各プロジェクトごとに秩父まほろば塾の四部会の結成をめざしました。ものでした。

しかし、そのための企画会議でもある「秋父未来会議」で数回の検討を重ねた結果、最も関心が高く差し迫ったプロジェクトでもある①の「マチづくり」に焦点を絞つて再度広い範囲の意見交換を交わす機会を得たいとの結論から、今年九月二十日に第二回の「秋父まほろばシンポジウム」を開催し、主題「どうする秋父のマチづくり」の下にお招きした六団体の活動報告を踏まえての活発な意見交換をいたしました。

そこで本稿では、その討論内容をおおむね振り返りつつ、「マチづくり部会」の結成に当たつて同プロジェクトの概要を紹介し、関心ある各位への参考呼びかけをする所存です。

一 パネラーの顔触れ

さて当日お招きした六団体とその代表報告者を、
その発表順に挙げると次のようです。

一
秩父まちづくり工房 木村和恵さん（観光ガイ
ド）

二
秩父青年會議所
高橋正謝（本年度理事長）

三二
種々会議所 高橋正樹さん(本年度理事長)
オペラ「みかど」公演実行委員会 塚越康一さん
(司会代表、契茶店主)

四 秩父商工会議所 島田憲一さん



三 プレゼンテーション（その一）

八年(1885)にロンドンで初演され、実に六七二回も連続劇「みかど」が舞台にする「チチブ」の地名が確かにち秋父市政五十周年を記念して地元で公演することにされ、この歌劇の国際的人気に鑑みて来年三月に秋父と決定するなど今後、新しい秋父のブランド文化に育て上げる確かな手応えを披露されました。

また島田さんは、商工会議所の街づくり委員会の検討結果として秩父神社周辺を「秩父の顔」に仕立て上げる方針の下で、特に神社前の消防署跡地に県内で二番目に古い洋式建築の旧大宮学校を移築してのこの建物を活用して仮称「秩父なつかし館」として周辺に宮森マーケットや地蔵川の復活やら秩父の菓

フレゼンテーション（その一）

五 秩父観光協会 町田啓介さん（同会誘客事業部長、旅館社長）
井上研史さん（次世代観光施策懇話会座長、商品開発製
造業社長）

木村さんは「まちづくり工房」を結成されて「まちづくり探検隊」を紹介し、市民主体のまちづくりプランの報告書に基づいて「まち歩きマップ」を作り観光客のボランティア・ガイドとなつて、故郷を持たない都会人が秩父を心の故郷にしてくれるよう「普段着の観光」をめざし、特に行政と市民とのパートナーシップを心がけているとのことでした。

高橋さんは、JCの関東大会を秩父で開催した日程に合わせて今年七月七日に実行した「秩父舞祭り—C—Dance」を紹介し、秩父音頭を現代風にアレンジして50連四四五人参加の新しい祭りが成功し、今後これが子供から老人まで世代を通じ共に喜んで参加できる点で、社会教育の一環ともなる大きな可能性を強調されました。

塚越さんは、明治十八年（1885）にロンドンで初演され、実に六七二回も連続公演されたという歌劇「みかど」が舞台にする「チチブ」の地名が確かに秩父に当たるところから秩父市政五十周年を記念して地元で公演することに

成功したことを紹介され、この歌劇の国際的人気に鑑みて来年三月に秩父と東京で四日間の再演が決定するなど今後、新しい秩父のブランド文化に育てる確かな手応えを披露されました。

子を楽しむオープン・カフェやらもセットするなど、現存する大正・昭和初期の建物群をネットにして回遊できる観光エリアの提案をされました。

つぎに町田さんと井上さんは、観光協会での誘客対策について特に過去二十年にわたって年間観光客が減少しつづけている点を指摘し、その原因は「中心の不在」と「観光消費額が低い」という二つの問題点にあるとして、それを打開するには「強力な誘客力を持つ観光資源の開発」することだが、それに結論的に「中心商店街を観光資源化」することが一番有効であることが、「番場門前構想」で札所十三番、十五番、秩父神社を拠点に中高年観光客の聖地にするほか、「菓子屋横丁計画」「消防署跡地計画」「秩父夜祭り六日町構想」、宮司が提唱する(回遊式)「祭礼博物館構想」、周辺整備として「秩父の森百年プロジェクト構想」などなど、要するに徹底した現状分析にもとづいて将来を見据えた総合的な具体策を今すぐにでも練り上げる必要があることを提案されました。

最後に鈴木さんは、秩父神社氏子青年会の過去十三年にわたる活動が「秩父神社を中心に文化的な秩父のマチづくりを推進する」という目的に沿っていることを紹介しながら、これまで例大祭や夏祭りを中心とする関連行事の改善や充実に尽力しつつ、「観月コンサート」や「柞乃杜落語会」「境内清掃」などの事業を継続しながら歴史部会や祭り部会などで神社内外の研修を重ねてきましたが、今後は外に開かれた社会奉仕も視野に入れて、子供たちの社会教育や市民たちとの連携、たとえば神社の原点である「柞の森」の整備と開放をすすめ、「妙見楽市」の定例化や「柞の森フェスティバル」などの新規企画なども加えて、要是神社側とも協力して鎮守の森を中心に境内を市民や子供たちの「まほろば」として心楽しい安らぎと癒しの場にしてゆきたいのだ、ということがありました。

結 び に

軽体憩をはさんだ第二部のディスカッションでは、昨年度第一回シンボジウムで基調講演をされた未来会議の田代順孝さんと司会をされた根岸俊雄さんの二人が司会を務めてパネラーと来会者とのあいだで活発な論議が展開したのですが、残念ながら紙幅の都合で割愛しなければなりません。しかし



関心のある方は、幸いに本会議を放映した秩父ケーブルテレビのご好意でビデオテープを提供していただきましたので、当社平成殿の設備を利用してご覧下さい。

以上粗略ながら、改めてまとめてみました六団体のご報告でお分りのように、どうやら「秩父のマチづくり」部会を立ち上げる機が熟したようです。当社もこれから例大祭、正月、節分と来春までは大事な神事に忙殺されますが、未来会議にもお願いして下さい。

来春には同部会発足を目指します。その節は、どうか奮つてご参加をお願い申し上げます。

【表紙歌解説】

知く夫房 守ります町ぞ
皇子の宮の 御名に負ふまらず
榮えしめなむ

榮えしめなむ

この歌は、社報柞乃杜創刊号で表紙の歌に掲載させていただきました佐々木信綱氏が昭和三年八月に当社に参拝された折に詠まれたものです。この貞の宮司論説にもありますように、第二回まほろばシンポジウムの開催において、多くの氏子尊敬者また郷土秩父を愛する方々に集まつていただき、これから「秩父」の未来について様々な意見交換がなされました。当社も御祭神の御神徳をいただきまして、この秩父の弥栄に努めていく所存にございます。

【表紙絵解説】

この度の表紙絵は、秩父郡小鹿野町出身の太田真伊子さんの作品「昇春」を掲載させていただきました。この作品は当社本殿東側に彫刻される「つなぎの龍」を描いたもので、タイトルとつながっています。この作品は、中国に伝わるもので、北斗七星の龍の信仰から名づけられたものと伺います。春分の夕刻東の空に、柄杓星である北斗が龍の姿に重なります。つまり社殿東側の龍は「昇龍」を意味するところから、鎖でつながれたのではないかという考えが生まれた訳です。作者は、日本大学芸術学部大学院にて油彩を専攻し、その卒業作品として郷土・秩父を代表する当社の彫刻を描き、この度ご奉納いたしました。



社団法人秩父宮会について



謹
描
根岸
敬
氏

秩父宮勢津子妃殿下



秩父宮雍仁親王殿下

秩父宮両殿下の慰靈・顕彰事業を進めております。「社団法人秩父宮会」の事務局が、この八月より秩父市役所から当社へ移転となりました。秩父宮会は、「秩父宮会は、第二皇子としてご生誕あそばされた淳四日に薨去あそばされたことから、そのご遺徳を永く後世に伝えることを目的として、昭和二十八年八月二十日に結成された社団法人です。故高野利兵衛氏、故久喜文重郎氏、故加藤博康氏がそれぞれ就任になりましたが、本年五月三日の総会及びその後の理事会の議を経て、当社奉賛会長である井上久氏が第四代の会長に選任されました。同時に、土屋義彦埼玉県知事が新たに歴代の会長には、故高野利兵衛氏、故久喜文重郎氏、故加藤博康氏がそれぞれ就任になりましたが、本年五月三日の総会及びその後の理事会の議を経て、当社奉賛会長である井上久氏が第四代の会長に選任されました。

秩父宮の名譽会長にご就任されることとなり、去る九月十日、井上新会長並びに守屋勝平副会長が知事公邸を表敬訪問し、土屋知事に改めて名譽会長に就任のお願いを申し上げ、ご快諾を戴きました。



明年は、秩父宮殿下御神隱五十年の式年の年にあたります。私どもの郷土の名をとつて宮号とされた秩父宮両殿下の数多の御恩に報いると共に、そのご由緒を永く後世に守り伝えることは、秩父にゆかりある者にとって至極当然のことであると言えましょう。

今後、秩父宮会では、従前より取り組んで参りました各種事業をさらに発展させれるべく、秩父宮家ゆかりの方々との交流を深めつつ、会の発展に努めて参る予定です。



◆秩父宮両殿下御尊影レリーフについて

秩父宮両殿下御尊影レリーフは、秩父はじめ、広く本会の活動趣旨にご賛同を戴きます個人・各種企業・団体のご入会を隨時受け付けております。ご入会を希望されます方は、秩父宮会事務局(担当新井君美)までお問い合わせ下さい。

明治三十五年六月二十五日、大正天皇の第二皇子としてご生誕あそばれた淳宮雍仁(あつのみややすひと)親王殿下には、大正十一年、ご成年に達せられた折りに、大正天皇より秩父宮の宮号を宣下せられ、「秩父宮家」をご創立されました。秩父連山は武藏國の名山であつて、遠く日本武尊の伝承など、神話の時代より皇室とのゆかりも深く、これに因んでの宮号と言われています。

賢くも秩父宮殿下には、大正十一年十一月二十六日、親しく当地にお成りあそばされ、秩父神社をはじめ、三峯神社、寶登山神社にご親拝されました。また、昭和三年九月には、駐米大使や初代の参議院議長などの要職を歴任され、その年の十一月二十六日には、昭和二十八年一月四日、五十歳にして薨去あそばされたことから、そのご遺徳を敬仰すべく、秩父郡市民の総意をもつて同年八月に社団法人秩父宮会が結成されました。

秩父宮勢津子妃殿下の特別のご聽許をもつて、親王殿下がご成年式のみぎりに大正天皇より拝領された御劍を、秩父宮会にご下賜あそばされたことから、秩父宮会ではこれを親王殿下の御靈代として秩父神社に奉斎し、毎年五月三日に宮様の御靈祭を斎行するとともに、平成七年八月二十五日に薨去あそばされた妃殿下のご聖恩にも応えるべく、両殿下の慰靈・顕彰事業を進めております。

◆秩父宮家と秩父宮会について

明治三十五年六月二十五日、大正天皇の第二皇子としてご生誕あそばれた淳宮雍仁(あつのみややすひと)親王殿下には、大正十一年、ご成年に達せられた折りに、大正天皇より秩父宮の宮号を宣下せられ、「秩父宮家」をご創立されました。

た松平恒雄氏のご長女、勢津子姫とご結婚。その後、昭和八年夏には、両殿下お揃いで約一週間ほど秩父にご滞在になりました。

昭和天皇のご名代として、多くのご公務にあたられる一方で、特にスポーツを愛好され、アルプス登頂をはじめ関係のご事跡も数多く、「スポーツの宮様」として広く国民に慕われましたが、昭和二十八年一月四日、五十歳にして薨去あそばされたことから、そのご遺徳を敬仰すべく、秩父郡市民の総意をもつて同年八月に社団法人秩父宮会が結成されました。

ふくろう

梟だより



◆柞の杜フェスティバル

10月13日(日)秩父神社氏子青年会主催による「柞の杜フェスティバル」が秋晴のもと賑やかに開催されました。

参集殿では、昨年大変話題になつた「千と千尋の神隠し」のビデオ上映会、神社上境内ではスタンプラリー、そして平成殿前では子供芸能大会や餅つき、むさしの児童文化研究所の先生方による腹話術など様々な催しが行われました。

なかでも特に秩父市本町出身のガンバ大島さんによる大道芸には、多くの集まつた親子連れの方々に大変好評をいただきました。



主催し、平成

11年からはじめられ今回で第5回を迎えることになりました。

新年のお参りの後、是非平成殿ギャラリーにお立ち

よりいただきまして、子供達を中心とし



た素晴らしい作品をご覧いただきたいとお待ち申し上げます。

◆秩父神社絵馬市

この度、お正月の賑やかさに花を添える企画といたしまして、「秩父神社絵馬市」を開催いたします。

平成15年は、「ひつじ」(未)歳です。羊

に関する絵馬や当社の「つなぎの龍」や

「北辰の梟」の彫刻を題材にした絵馬な

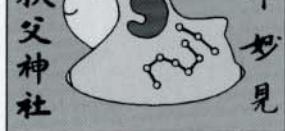
ど数十種類を展示し、限定数にて授与する企画でございます。

是非ご自宅の居間の恵方に飾っていただけ一年の無事と実り多き年であることを祈るものであります。

毎年恒例になりました新春書道作品展が平成15年1月1日より7日までの期間、平成殿二階展示ギャラリーにて開催されます。

この作品展は、秩父市近戸町にある、

たぢばな書道会(代表 根岸司黎先生)が



◆「社叢学会」理事会開催

去る十一月十七日(土)午後二時から、

社叢学会の第三回理事会が当社平成殿で開催され、京都、大阪、岡山、東京など

から理事長の上田正昭・京大名譽教授、上田篤・京都精華大学名譽教授、菅沼孝

之・元奈良女子大教授、米山俊直・大手

和銅鉱泉旅館にて懇親会を開き、数人は一泊して翌朝、当社の境内林を探索する

など秩父の秋を味わいながら解散しました。

て会員数五百人を超えるなど、順調に体勢をととのえており、先月には内閣府の非営利特別法人NPO認証も受けた調査研究活動をすすめています。

今度の理事会は、来年度にかけての活動など盛り沢山の協議を済ませたあと、

和銅鉱泉旅館にて懇親会を開き、数人は一泊して翌朝、当社の境内林を探索する

など秩父の秋を味わいながら解散しました。

◆秩父神社妙見講

自 平成十四年九月
至 平成十四年十一月

九月 八日 小鹿野講

九月 八日 川口三栄講
小菅健夫講元外百六十名

九月 十六日 中淳一講元外二十八名
高木秀行講元外二四十六名

九月 十六日 上町講

九月 二十九日 高橋信一郎講元外四百二十六名
今井奎吾講元外二百六名

十月 四日 荒川妙見講

新井文久造講元外百三十一名
十月 九日 幸手妙見講

高浜彰男講元外四十八名

十月 十九日 東町講

出浦義雄講元外百八名
十一月十三日 番場講

宮野前方也講元外百八名



